

問題No.1

大規模小売店舗に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大規模小売店舗立地法では、店舗面積1,000㎡以上が対象となる。
2. 最近の大規模小売店舗は、専門深化した「専門大店型」から、豊富な品揃えの「総合型」へと変化している。
3. SPAとは、製造と小売を一貫して行う新業態型の大規模小売店舗のことである。
4. 専門大型店を規模的に見ると、営業面積1,000㎡程度がマーケットの主流である。

【解説】

2. むしろ逆である。

「商業施設・創造とデザイン」 V. 機能計画から施設計画へ 2. 大規模小売店舗業態の捉え方 P.212～213参照

答 2

問題No.2

商業施設計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 適正な資金の投資の中でも、施設投資と商品仕入れ投資の良いバランスは重要である。
2. 商業施設で言う「マーケット」とは、立地特性、人口、世帯数、収入構成、人口動態などを含めていう。
3. マーチャンダイジング計画とは商品開発計画のことで、商品の性能とコストのバランスを考慮することである。
4. VMDとは視覚的効果をねらった商品政策のことで、商品をはじめ全てに視覚的要素を演出し、管理する活動をいう。

【解説】

マーチャンダイジング計画とは、販売計画の事で商品化したものをいかに商品構成をしてどのような販売形態をとるかである。「商業施設・創造とデザイン」 V. 機能計画から施設計画へ 5-(4) P.230参照

答 3

問題No.3

小規模店舗に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 飲食店の1日の売上高は、以下の計算式で求められる。
客単価×客席数×客席率×回転率
2. マーケット分析の中の「商品分析」とは、消費者一般、あるいは特定商品の消費者がどのような特性をもっているかを調べることである。
3. マーチャンダイジング計画とは、販売計画のことで商品化したものをいかに商品構成をしてどのような販売形態をとるかである。

4. 店舗の販売形態には、対面販売、側面販売、実演販売、セルフセレクションなどがある。

【解説】

「消費者一般、あるいは特定商品の消費者が性別・年齢・所得階層・地域などのどのような特性をもっているかを調べることである。」という記述は「消費者分析」の内容である。

「商品分析」とは「市場に供給されている商品の機能・品質・デザイン・包装・価格について消費者の要求に適合しているかを調べること」である。

答 2

問題No.4

屋外広告物に関する次の記述のうち、屋外広告物法上、誤っているものはどれか。

1. 屋外広告物法は、良好な景観形成・風致維持・公衆危害防止の観点から屋外広告物の規制について定められている。
2. 屋外広告物の規制は、都道府県や大都市等の条例で行われている。
3. 公園・駅前広場・学校その他さまざまな公共施設には、屋外広告物が規制されていない。
4. 商業地域内の建築物に、表示する広告物の総表示面積等の規制がなされている場合がある。

【解説】

公共施設においても、制限地区により屋外広告物の規制が発生する。規制は住居地域では強く、商業系地域では少ないので誤り。

答 3

問題No.5

照度計算を行う場合の次の要素のうち、最も関係のないものはどれか。

1. 光源と被照面との距離
2. 室指数
3. 被照面の色彩
4. ランプの光束

答 3

問題No.6

音の性質に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 音響出力とは、音源から発する音のエネルギーをいう。
2. 壁は重い材料で厚くすると、一般に、外からの騒音防止に効果がある。
3. 残響時間とは、音源が停止してから室内の音の強さのレベルが30dB低下するまでの時間をいう。
4. 同じ質量の壁体であれば、中高音域では、単層より、中空層を設け複層で構成するほうが透過損失が大きくなる。

答 3

問題No.7

近代西洋建築様式に関する次の用語の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. アーツアンドクラフト …… 伝統様式からの脱却
2. セセッション …… 経済性と合理性
3. アールヌーボー …… 古典様式への回帰
4. バウハウス …… 工業と芸術の融合

【解説】

3. アールヌーボーは、自然界に範を求めた新しいデザイン運動である。

答 3

問題No.8

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 身障者便所の内法寸法を1.5m×1.5mとして計画した。
2. 建物内の傾斜路の勾配を1/12として計画した。
3. 事務所の中廊下の幅員を1.8mとして計画した。
4. ホテルのツインベッドルームの床面積を25㎡として計画した。

【解説】

1. 身障者便所の内法寸法としては、2.0m×2.0mが適当寸法である。

答 1

問題No.9

次の記述のうち建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 「特殊建築物」には、劇場、観覧場、展示場、百貨店等いろいろな商業施設がある。
2. 「主要構造部」には、壁、柱、はり、屋根、階段等がある。
3. 「建築面積」は、その建築物の各階の床面積の合計による。
4. 「避難階」は、直接地上へ通じる出入口のある階をいう。

【解説】

建築面積とは、その建築物の外壁やこれに代わる柱の中心線で囲まれた部分の水平投影面積のことである。建築物の各階の床面積の合計は「延べ面積」という。

答 3

問題No.10

次の建築物のうち、建築基準法上、近隣商業地域内に原則として建築できないものはどれか。

1. 倉庫
2. スケート場
3. 老人ホーム
4. ダンスホール

【解説】

4. 近隣商業地域内には、ダンスホールやキャバレー等は建築できない。

答 4

問題No.11

建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の骨組は、できるだけ靱性（じんせい）を持たせる。
2. 建築物の剛心と重心は、できるだけ離すようにする。
3. 建築物の形状は、できるだけ単純で構造力学的に明快なものとする。
4. 柱や耐震壁は、建築物に捩（ねじ）り変形ができるだけ生じないような配置とする。

【解説】

2. 建築物の剛心と重心とは、捩り変形が生じにくいよう近くするのがよい。

答 2

問題No.12

建築用の木材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 一般的に含水率が小さいほど強度は大きくなる。
2. 一般的に広葉樹の方が針葉樹より比重が大きい。
3. 板目は、桁目に比べて収縮・捻れ・割れなどの発生が少なく高価である。
4. 一般的に心材の方が辺材より硬く狂いが少ない。

【解説】

3. 桁目のほうが板目のほうが収縮・捻れ・割れなどの発生が少なく高価である。

答 3

問題No.13

コンクリート材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの強度は、セメント強度に比例し、水セメント比（40～70%の範囲）が小さい程その強度は小さい。

2. ワークビリティとは、コンクリート打設の際の作業性の難易を示すものである。
3. コンクリートは、使用骨材の違いによって普通コンクリート、軽量コンクリート、重量コンクリートなどの種類がある。
4. AE剤は、微細な気泡を発生させて、施工軟度を改善し耐久性を増すが、圧縮強度・付着強度を低下させる。

【解説】

1. 水セメント比が小さい程その強度は大きい。

答 1

問題No.14

空気調和設備等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床暖房は、一般に、室内の上下の温度差が少なく、快適である。
2. 空気熱源ヒートポンプ方式のエアコンの暖房能力は、外気の温度が低くなるほど増加する。
3. 冷却塔の冷却効果は、主として、冷却水と空気との接触による水の蒸発潜熱により得られる。
4. 空気調和とは、室内の空気の温度、湿度、清浄度、気流分布などを使用目的に適した状態に同時に調整することをいう。

【解説】

2. 外気の温度が高くなるほど暖房能力は増加し、外気の温度が低くなるほど低下する。

答 2

問題No.15

排水設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 排水トラップを設ける目的は、排水管内の下水ガス、臭気、害虫などの室内への侵入を防止することである。
2. 排水管に通気管を設ける主な目的は、排水管内の圧力変動を緩和してトラップの封水を保護することである。
3. グリーストラップは、排水中の脂肪分をトラップ内で除去するために設ける。
4. 排水トラップの機能を上げるため、二重にトラップを設けたほうがよい。

【解説】

4. 二重トラップは禁止。

答 4